

消化管障害と漢方薬

小松靖弘

北里大学 生命科学研究所

和漢薬研究講座

五行説

宇宙にある全ての事物が、木火土金水の5種の物質の運行と変化によって構成されているという観点に立ち、漢方医学における生理、病理、診断、治療、薬物などの理論も五行学説の影響を受けている。五行とは自然界の変化を表すための符号である。

腎が精を蔵し肝を養う。肝が血を蔵し心を助ける。心は脾を温め、脾は水穀を化生し肺を養う。肺は静粛下降し腎を助ける。

調和（協調）

肝は脾に強く、肺に弱い、心は肺に強く腎に弱い、脾は腎に強く肝に弱い、肺は肝に強く心に弱い、腎は心に強く脾に弱い、心は肺に強く腎に弱い

和 調 制 抑

五行の考え方
—人間の体と五行の「相生」と「相克」の関係—



五行による相互作用

五行説

五行による生体の調和作用

相生関係：相互強調関係

肺は脾胃の気の支持により気をつかさどる(脾胃⇒肺)

緊張するとどきどきする(肝⇒心)

うれしいことがあると食欲が出る(心⇒脾)

沢山食べると呼吸が荒くなる(脾⇒肺)

胃腸の働きを高め喘息を治療(土⇒金)

相剋関係：相互制約関係

木剋土：ストレスによる肝の緊張は脾の食欲を減らす

土剋水：

水剋火：腎の潤いが喜びの興奮を和らげて眠れるようにする

火剋金：心の熱が肺の涼の性質をカバーする

五行説

五行の病的関係

相乗関係

抑制する立場が病的に強く、抑制されるものの勢いが弱すぎるとき、抑制(相剋)の度を越えていじめてしまう。肝の過度のストレスによる緊張は脾に胃潰瘍を引き起こす。

相侮関係

相乗と逆に、抑制する立場が弱く、抑制される立場が強すぎるとき、反対に抑制する立場のものが抑制される。肺の勢いが弱く、肝の勢いが強すぎると、肝が肺の働きを弱める。すなわちストレスで喘息が悪化する(木返侮金)。腎臓が悪くて食欲がなくなる(水返侮土)。肺の状態が悪くて心に負担がかかる(金返侮火)。心臓が悪いと腎の機能が低下(火返侮水)。

東洋医学での消化管組織 「脾」、 「脾・胃」

東洋医学でいう脾は西洋医学の「脾臓」とは異なり、
「消化吸収の働きの総称」し、「気」と「血」を生み出す
源と定義しています。

「脾」は胃腸で消化された飲食物を、吸収して「気」
(エネルギー) や、「血」に変えて心肺へ送り、そこから
全身に運搬されると言う一連の働きを司っています。

これを脾の 「運化作用」といい、取り込んだエネルギー
を昇らせる働きを「昇清」と言います。

“肝”と“脾”

- ▶ 消化器の中心は東洋医学的には“脾”であり、まずは脾を整えることを考えますが、**胃腸の機能を悪化させる要因として“ストレス”の関与は大きい**もので、ここに**“肝”すなわち“怒”**が関わってきます。ストレスから出る“怒”は“肝”の失調を来し、相克の関係から“肝”の昂ぶりは“脾”の衰えを招くことになります。つまり“肝”を抑える治療（これを抑肝と言います）や“脾”をたすける治療（これを“扶脾”と言います）が有効で、これらの治療を併せて**「抑肝扶脾」**と言います。

漢方治療では“脾”＝消化機能を整えることで、生体エネルギーである“気”（特に飲食物からの“水穀の気”と言います）が補い養われ、意欲の改善や疲労回復へとつながります。

“肝” と “脾”

漢方薬を構成する生薬の中で、“脾（胃腸）”を補い整えるものの代表は“人参”です。その他、“茯苓”、“白朮”や“甘草”という生薬などにも補脾作用があります。そしてこれらがチームを組んだ漢方薬として、人参湯や四君子湯が有名です。これらは胃が弱く、冷え性ですぐに胃もたれするような方に処方されます。また六君子湯は、四君子湯と胃のむかつきに用いられる二陳湯が組み合わされた処方ですが、最近の研究で胃の排泄能を改善したり、グレリンという食欲に関連するホルモンの感受性を高めることで食欲改善効果があることがわかってきました。

“肝”の失調も、胃腸の機能に深くかかわっています。“抑肝作用（抗ストレス作用）”のある生薬としては、“柴胡”が主なもので、これを含む処方を柴胡剤と呼んでいます。たとえば“柴胡”・“芍薬”・“枳実”・“甘草”の四つの生薬で構成される四逆散は、「胃炎」や「胃酸過多」に保険適応があります。この処方には“人参”が含まれていませんが、抗ストレス作用により胃腸機能の改善が得られるものの代表と言えます。また抑肝扶脾の効果を持つ、柴胡と人参が含まれる処方も数多くあり、その代表としては補中益気湯

消化と吸収

脾のはたらき

- ①運化作用…。食べ物を消化し、作られた栄養分を吸収、全身に送る。
消化、吸収、運搬を行います
- ②統血作用…。血を統轄しています。気の固摂作用により出血を防止します。
- ③栄養分から津液をつくり、全身に送ります。
- ④気の生成…。後天の精を生成して補充します。
- ⑤四肢・筋肉…。脾の運化した栄養物質が四肢・躯幹の筋肉（筋肉や皮下軟部組織）を栄養します。
- ⑥口…。口と関連して、食欲や味覚に反映しています（口に開竅）。
- ⑦涎（ぜん）…。脾液です。よだれのことです

胃のはたらき

- ①飲食物を消化します。水穀（飲み水と穀類）を受納し腐熟させます。

「気」の作用

(1) 体を成長させ、調整する。

(推動 (すいどう) 作用)

(2) 病気のもとを、体内に入れない。(防衛作用)

(3) 重要な栄養を、体外に出さない。

(個摂 (こせつ) 作用)

(4) 体を温める。(温く作用)

(5) 冷たい物を温めて軽くして上に運ぶ。(気化作用)

(6) 気や水をつくる。(化生作用)

(7) 気や水を体中に循環させる。

(行血輸布 (ぎょうけつゆふ) 作用)

「脾、胃」の機能低下は胃腸障害を惹起する。

- 食欲減退…脾気虚による運化の機能失調。
- 腹部脹満…脾気の不足により運化の機能が失調し、気機の阻滯を生じる。
- 泥状便…運化機能の失調による。
- 無気力…気虚による臓腑の機能減退。
疲労倦怠、体がやせる…脾気虚により気血の生成が不十分のため、

四肢が滋養されない*。

●顔色萎黄…気血の生成不足により、顔部が滋養されない。

●舌淡、苔薄白、脈濡緩(弱)…脾気虚弱による気血不足を表わす。

●脾は四肢と肌肉をつかさどる。

脾・胃病の一覧は次のとおりです。

- 胃腸症状 (感冒性胃腸症状、胃腹痛、嘔吐、便秘、下痢 (泄瀉)、便閉、
便失禁)
- 栄養症状 (熱によるやつれ、痩せ、糖値異常、糖尿病、栄養異常、起床不能)
- 水毒症状 (浮腫、痰 (タン)、胃内停水、腸鳴)
- 筋肉症状 (筋肉痛、すねの痛み、肩こり、肩痛、顔面痛、胸脇痛、筋萎縮症)
- 口腔症状 (口内炎、歯痛、歯肉症状、歯槽病、唾量異常、言語障害)

消化管障害

▶ 医療が病気の治癒からQOLの改善へと視点が移りゆく中、胃もたれ・胃痛などの不快な症状がありながら、**内視鏡などの検査を受けても原因となる胃潰瘍などの病気がみつからない場合、**

慢性的に消化器症状が持続する状態を「機能性消化管障害」と「機能性胃腸症 (Functional dyspepsia)」と2006年5月の米国消化器病週間で提案され、

別名で非潰瘍性胃腸症 (Non-Ulcer Dyspepsia : NUD) とも呼び、これまで神経性胃炎や胃下垂などの診断名で呼ばれていたものが含まれています。ちなみに『**ディスペプシア (Dyspepsia)**』は『**上腹部愁訴**』と訳され、胃もたれ (食べ物がいつまでも胃に停滞しているような不快感)、**早期飽満感** (食事を始めてすぐに胃がいっぱいになって食べられなくなる感覚)、**心窩部痛** (みぞおちの痛み)、**心窩部灼熱感** (みぞおちの熱い感覚) といった症状のことを言います。

消化管障害

- ▶ Rome III分類では、
- ▶ **機能性消化管障害 (functional gastrointestinal disorder; FGID)**
FGIDは消化器愁訴がありながらその原因を消化管運動を含めても十分に説明できない病態であり、しかも患者は症状治療を必要としている状態にあるものである。
- ▶ **6か月以上前から症状があり、最近3か月間に症状(胃もたれ・早期飽満感・心窩部痛・心窩部灼熱感)のいずれかがあり、検査で原因となる疾患を確認できない場合に診断されます。**つまり一定期間続く症状があるということと、胃カメラなどの検査が必要となります。
- ▶ 上腹部の症状(胃の痛み・もたれ・胃部の不快感)は、胃・十二指腸潰瘍や胃癌などの他に、胆嚢や膵臓の病気が原因となることがあり、胃カメラや超音波検査などをまず受ける必要があります。

機能的ディスペプシアの 診断基準

▶ B1. 機能的ディスペプシア

(機能的上腹部愁訴, 機能的胃腸症)

* 必須条件 1. 以下の項目が1つ以上あること

a) つらいと感じる食後のもたれ感

b) 早期飽満感 c) 心窩部痛 d) 心窩部灼熱感 および

2. 症状の原因となりそうな器質的疾患(上部内視鏡検査を含む)が確認できない * 6ヵ月以上前から症状があり, 最近3ヵ月間は上記の基準を満たしていること



機能的ディスペプシアの 診断基準

▶ B1a. 食後愁訴症候群 (PDS) * 以下のうちの一方あるいは両方があること

1. 普通の量の食事でも、週に数回以上、つらいと感じるもたれ感がある
2. 週に数回以上、普通の量の食事でも早期飽満 感のために食べきれない * 6ヵ月以上前から症状があり、最近3ヵ月間は上 記の基準を満たしていること 補助的基準 1. 上腹部の張った感じ、食後のむかつき、大量 の暖気(げっぷ)を伴うことがある 2. 心窩部痛症候群 (EPS) が併存することもある

▶ B1b. 心窩部痛症候群 (EPS) * 以下のすべての項目があること

1. 心窩部に限局した中等症以上の痛みあるいは 灼熱感が週に1回以上ある 2. 間欠的な痛みである 3. 腹部全体にわたる、あるいは上腹部以外の胸 腹部に局在する痛みではない 4. 排便、放屁では改善しない 5. 機能的胆・オツジ括約筋障害の診断基準を 満たさない * 6ヵ月以上前から症状があり、最近3ヵ月間は上 記の基準を満たしていること 補助的基準 1. 痛みというよりは灼熱感のこともあるが、胸 部の症状ではない 2. 痛みは通常食事摂取で誘発されたり改善したりするが、空腹時に起こることもある 3. 食後愁訴症候群 (PDS) が併存することもある。
- 文献1より引用, 日本国際消化管運動研究会訳

機能的ディスペプシアの 診断基準

- ▶ 表2. Rome III 日本語訳—上腹部愁訴(ディスペプシア)とその定義 (文献1より引用・一部改変, 日本国際消化管運動研究会訳)

症状: もたれ感 早期飽満感 心窩部痛 心窩部灼熱感

定義: 食物がいつまでも胃内に停滞しているような不快感を指す。食事開始後, すぐに食べた量以上の食べ物で胃がいっぱいになるように感じて, それ以上食べられなくなる感じを指す。従来は, 「早期満腹」と呼んだが, 飽満は食事中に食欲がなくなる状態を指すので, より適切である。

臍と胸骨下端の間, 鎖骨中線によって区切られる領域を心窩部(上腹部)と定義する。痛みとは, 不快な自覚症状で, 患者によっては組織障害が起こっていると感ずることもある。患者は痛みと表現しなくても, 非常に辛い症状である。臍と胸骨下端の間, 鎖骨中線によって区切られる領域を心窩部(上腹部)と定義する。灼熱感は熱感を伴う不快症状を指す。

機能的ディスペプシアの診断基準

▶ 表3. RomeIII日本語訳—過敏性腸症候群の診断基準

(文献1より引用, 日本国際消化管運動研究会訳)

C1. 過敏性腸症候群 (IBS) * 過去3ヵ月間, 月に3日以上にわたって腹痛や腹部不快感が繰り返し起こり, 次の項目の2つ以上がある** **1. 排便によって症状が軽減する** **2. 発症時に排便頻度の変化がある** **3. 発症時に便形状(外観)の変化がある** * 6ヵ月以上前から症状があり, 最近3ヵ月間は上記の基準を満たしていること ** 腹部不快感は, 痛みとは表現されない不快な感覚を意味する。病態生理学的研究や臨床研究に際しては, 週に2日以上痛みあるいは不快症状があるものを適格症例とする。

建中湯類

虚弱体質を目標に用いられることの多い建中湯類

漢方では生体を動かしているエネルギーを「気」とよんでいるが、この「気」は食物を取り込んで、脾胃で作られると考えられている。胃腸機能が弱いと「気」が作られず「気虚」という元気がない状態になる。この状態を改善するのが「建中湯類」の役目で、「中」は脾胃のことで建中とは脾胃を建て直すの意

胃腸の働きを元の正常な状態に戻す処方と言う事

胃腸機能が悪くやせて元気の無い者に頻用する漢方薬で
虚弱老人が寝たきりにならぬよう！

虚弱児が元気に育つよう大いに活用が期待できる一連の漢方方剤である！

田澤 寛子

建中湯類

- **大建中湯:** 腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの(株ツムラ)
腹壁胃腸弛緩し、腹中に冷感を覚え、嘔吐、腹部膨満感があり、
腸の蠕動亢進と共に、腹痛の甚だしいもの(小太郎製薬)
- **中建中湯:** 冷えによって、腹痛を伴う下痢や便秘
- **小建中湯:** 体質虚弱で疲労し易く、血色が優れず、腹痛、動悸、
手足のほてり、冷え、頻尿及び多尿などいずれかを伴う次の諸証:小
児虚弱体質、疲労倦怠、神経質、慢性胃炎、小児夜尿症、夜泣き
(株ツムラ)
- **黄耆建中湯:** 身体虚弱で、疲れ易い者のねあせ、病後の体力低下
- **帰耆中建湯:** 盗汗の酷いもの、慢性中耳炎、痔ろう、虚弱児、
大病後の衰弱、慢性潰瘍、その他の化膿性腫物

建中湯以外の処方

- **桂枝加芍薬湯**：腹部膨満感のある次の諸証：しぶり腹、腹痛(株)ツムラ、クラシエ)
- **人参湯**：体質虚弱の人、あるいは虚弱により体力低下した人の次の諸証：急性・慢性胃腸カタル、胃アトニー症、胃拡張、つわり、萎縮腎(株)ツムラ) 手足などが冷え、尿量が多いものの
次の諸証：胃腸虚弱、胃アトニー 下痢、嘔吐、胃痛(クラシエ)
- **六君子湯**：胃腸の弱いもので、食欲が無く、みぞおちが痞え、疲れやすく、貧血性で手足が冷え易い ものの次の諸証：胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐(株)ツムラ、クラシエ)
- **四君子湯**：やせて顔色が悪くて、食欲がなく、疲れやすいものの、次の諸証：胃腸虚弱、慢性胃炎、胃のもたれ、嘔吐、下痢

構成生薬

食品として使用されている素材が多い

- 大建中湯： 粉末飴 生姜 高麗人参 山椒
- 桂枝加芍薬湯： 生姜 甘草 大棗 桂枝 芍薬
- 人参湯： 生姜 甘草 高麗人参 蒼朮
- 六君子湯： 生姜 甘草 高麗人参 大棗 陳皮 蒼朮
半夏 茯苓
- 四君子湯： 生姜 甘草 高麗人参 大棗 半夏、
- 小建中湯： 粉末飴 生姜 甘草 大棗 桂枝 芍薬
- 中建中湯： 膠飴 乾姜 甘草 高麗人参 大棗 桂皮 山椒 芍薬

帰耆建中湯

・配合生薬

生姜	:3~4g
<u>大棗</u>	:3~4g
芍薬	:6g
桂皮	:3~4g
甘草	:2~3g
黄耆	:2~4g
<u>当归</u>	:4g
膠飴	:20g

虚弱体質

中建中湯

・配合生薬

乾姜	:3~5g
<u>大棗</u>	:3~4g
桂皮	:3~4g
芍薬	:6g
甘草	:2~3g
山椒	:1~2g
<u>人参</u>	:2~3g
膠飴	:20g

②. 効能

冷えによって、腹痛を伴う下痢や便秘に

用いられます。

▶ ③. 適応

下痢 便秘

大建中湯の薬理

▶ 概要 漢方的概要

中焦（消化管機能）を温め、補う漢方薬

体力が低下した人「虚証」で腹部に、手足に冷え（腹中に寒が）あり、腹痛（蠕動亢進で痛み）がある人に用いる。

腸管蠕動運動不安定、 腸疝痛。

腎石発作、イレウス（腸閉塞）、腹部膨満、嘔吐

腹部が軟弱無力で膨満感があり、食欲不振、消化吸収が弱い、虚弱体質

消化管運動の調整作用

消化管の血流量の増加

イレウスの改善

消化管術後の運動快復、癒着の抑制

六君子湯の効果

- ▶ 「六君子湯(りっくんしとう)」は、漢方の原典である『万病回春(まんびょうかいしゅん)』に記載されている漢方薬で、胃腸が弱く、食欲がなく、疲れやすく、貧血性で日常手足が冷える方の「胃炎」、「胃腸虚弱」、「胃下垂」、「食欲不振」、「胃痛」等に用いられています。

六君子湯(リクンシトウ)という方剤です。胃腸の働きをよくして、水分の停滞を改善します。その作用から、胃もたれ、胃のチャポチャポ、吐き気、食欲不振、お腹のゴロゴロ、軟便などに用います。やせ型で顔色が悪く、疲れやすい人に向く処方です。

【ツムラ・他】胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症。

胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良 食欲不振、胃痛、嘔吐

【コタロー】

貧血、冷え症で胃部圧重感があり、軟便気味で疲れやすいもの。

胃炎、胃拡張症、胃アトニー症、胃下垂症、胃神経症、つわり、虚弱児の食欲不振。

【三和】

貧血、冷え症で胃部に重圧感があって、疲れやすいものの次の諸症。

胃腸慢性カタル 胃下垂、胃アトニー症、悪阻、虚弱児の消化不良、胃潰瘍。

六君子湯の効果

- ▶ **脾胃虚弱タイプのNUDのファーストチョイス**
胃のもたれ 胃のつかえ 食欲不振 胃痛 下痢 便秘 慢性腸炎など胃内停水や胃下垂を認めることが多い。
- ▶ **脾胃虚弱タイプの鼻炎、気管支炎、喘息のファーストチョイス**
咳・痰・鼻水が続く風邪に適応が多い。
陳皮・半夏が喉や気管支の軽い熱を冷ます。
- ▶ **脾胃虚弱タイプの心身症・神経症・不眠症のファーストチョイス**
イライラ、クヨクヨ、耳鳴り、ふらつき、不眠、のぼせに適応が多い。
陳皮・半夏は体内の余分な水分と同時に気の滞りをも排除する。
- ▶ **※その他、脾胃虚弱タイプの高血圧症、胃腸に障害を起こしやすい漢薬を服用させるときの補助薬方や、癌治療など攻撃力の強い治療の際の副作用軽減に広く使用する。**

六君子湯の薬理

使用目標： 比較的体力が低下した人(虚から中間証)、
手足の冷え、腹力微弱
食欲不振、胃もたれ感、心窩部の膨満感、嘔気

消化管運動の亢進

胃粘膜の障害抑制

胃粘膜血流低下の抑制

胃酸、ペプシンの分泌抑制

人参湯の薬理

使用目標： 体力の低下した人、 冷え症、胃腸虚弱、食欲不振、 胃部停滞感、下痢、
倦怠感、軟便、唾液量が多い、 腹力が非常に弱い
裏寒・胸中痞・心下硬・腹部軟弱・腹部板状に硬いこともある。一般的に
胃腸虚弱にて、やせて筋力が弱く、下痢しがちで唇の色が薄い人に使用

ニンジン： 消化管機能の亢進

蒼朮 : 胃内の停滞した水分の除去、消化の促進、

乾姜 : 冷えた胃を温める。

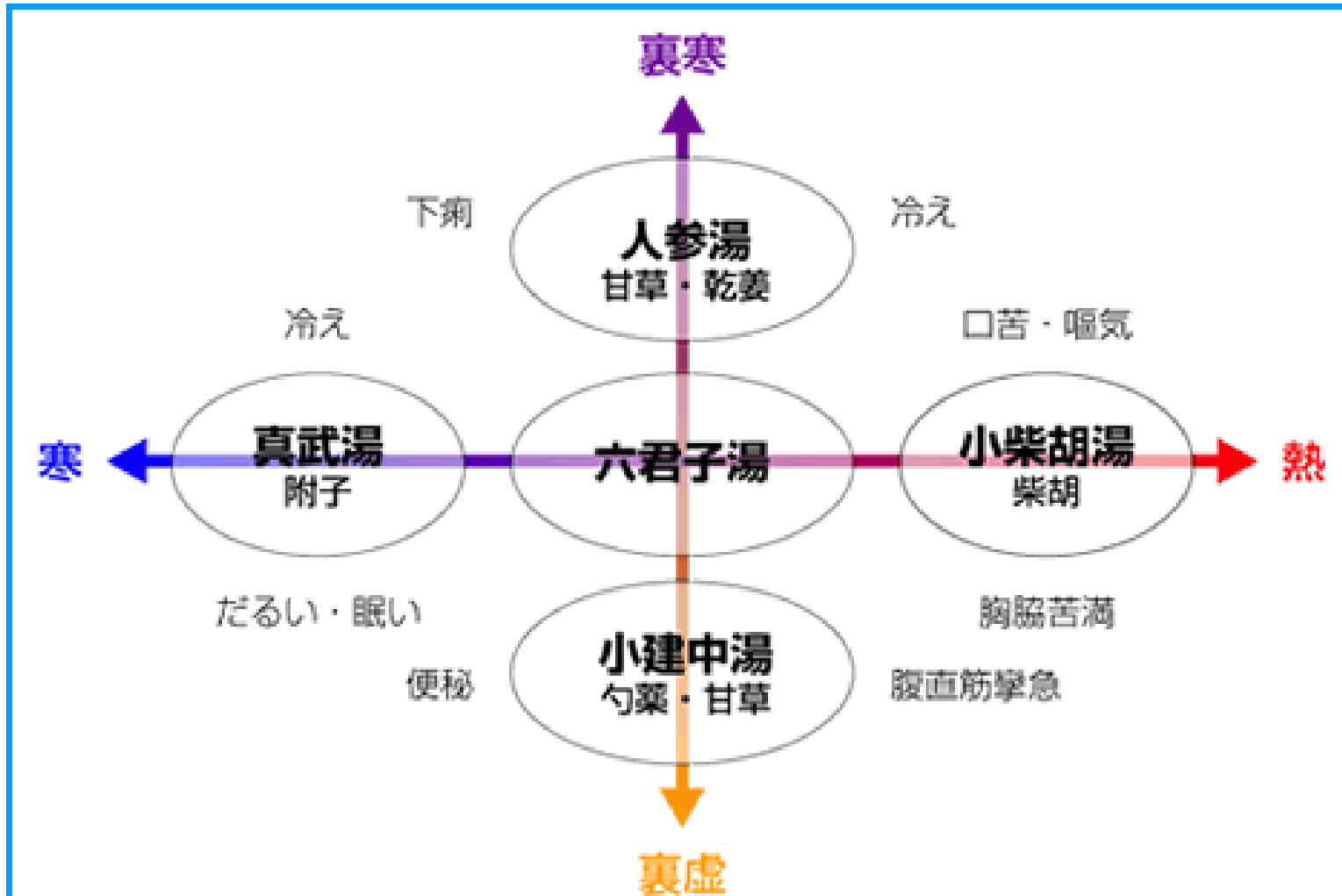
- ▶ 温裏剤（人参湯・真武湯など）
- ▶ 人参湯（人参・白朮・甘草・乾姜）について
- ▶ 現代医学にない漢方医学の最大の利点は裏寒の治療法を持つところにあります。
漢方エキス剤での治療時は人参湯が裏寒のファーストチョイスの薬になります。
漢方医学で一番応用範囲が広くて重要な薬方でもあります。

構成素材の作用

LSB	整腸効果	整腸効果
乳酸菌製剤	整腸効果	整腸効果
KUN-C01	抗菌。抗ウイルス	抗菌。抗ウイルス
樟芝	抗菌。抗ウイルス	抗菌。抗ウイルス 肝機能改善
クマザサエキス(村山先生)	抗菌。抗ウイルス	抗菌。抗ウイルス
桂皮ext (シナモン)	鎮静	解熱、抗炎症 抗アレルギー 建胃
山椒エキス	消化管運動亢進	建胃 整腸作用
高麗ニンジン末 (粉末)	消化管運動亢進	生体機能全般に作用する。
ショウガ・エキス(乾)	抗炎症効果	建胃 整腸作用 抗炎症 抗菌
クチナシの実エキス	抗炎症効果	抗菌 肝保護作用 利胆作用
カンゾウエキス腠液促進	抗炎症効果	抗炎症 抗アレルギー、
キキョウエキス	抗炎症効果	腠液分泌促進
タイソウ軟エキス	消化管運動調整	抗潰瘍
シリマリン	肝機能改善	肝機能改善作用
山芋粉末	血管拡張作用	血管拡張作用
チンピ粉末	血管拡張作用	建胃 抗アレルギー
チャーガ粉末/エキス末	免疫賦活	免疫賦活
ビタミン・ミネラルミックス	免疫賦活	免疫賦活
メイプル・シロップ	抗菌、味覚調整	抗菌、味覚調整
肝臓粉末	味覚調整	
酵母エキス	免疫賦活	

漢方薬講座

名古屋市井上内科クリニック



六君子湯を原点とした漢薬のマップ